

2024年4月期 決算説明会資料

2024年6月18日

「花咲く、食のひとときを」

株式会社 **梅の花**

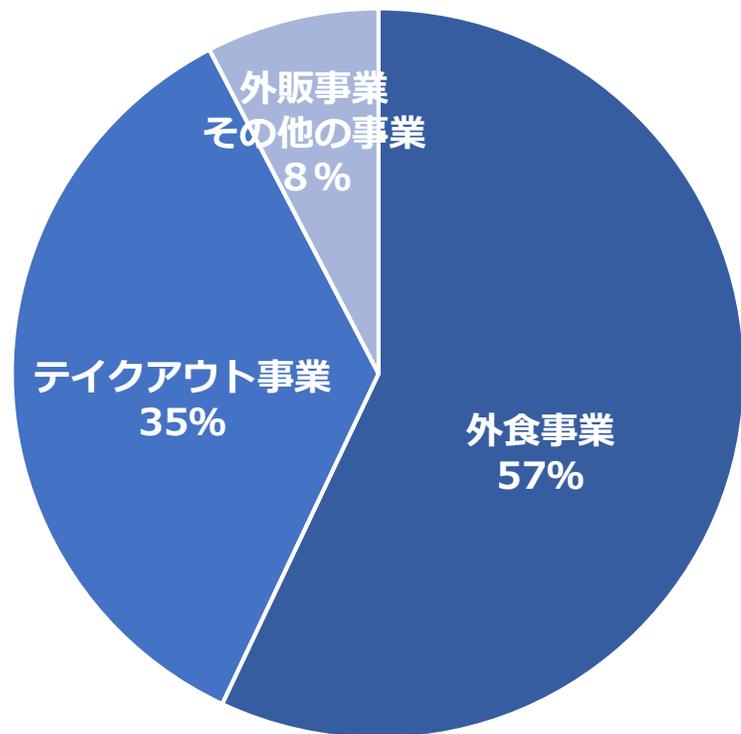
コード：7604
東証スタンダード市場

- 1. 会社概要事業内容説明**
2. 2024年4月期 通期業績説明
3. 2025年4月期 業績予想
4. 2025年4月期の取り組みについて
5. 免責事項

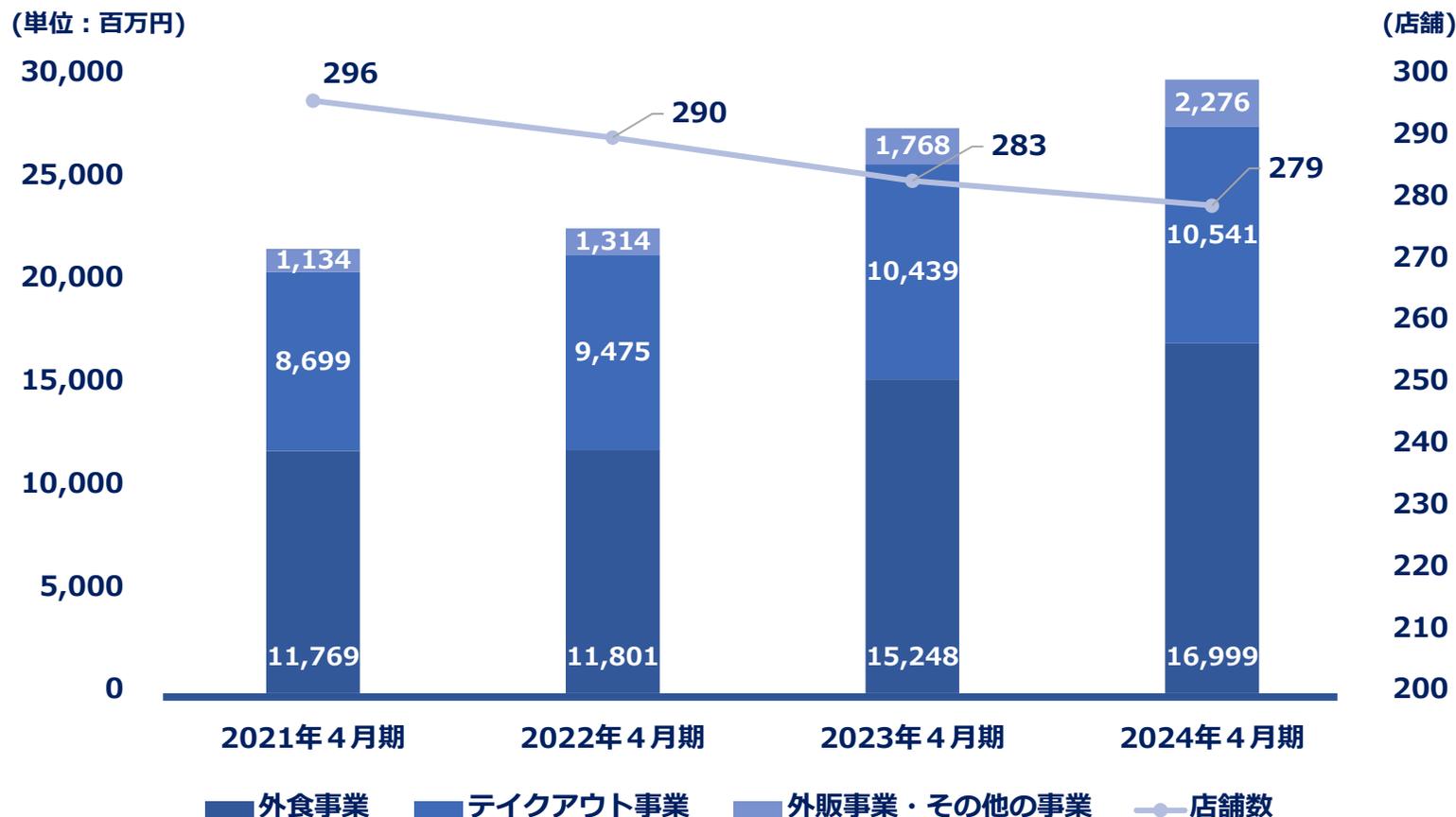
会社名	株式会社梅の花
代表者	代表取締役社長 本多 裕二
本社所在地	福岡県久留米市
経営理念	『人に感謝、物に感謝』
上場区分	東京証券取引所 スタンダード市場 7604 (小売業)
従業員数 (2024年4月30日現在)	657名
店舗数 (2024年4月30日現在)	279店舗 (外食事業 118店舗 テイクアウト事業 161店舗)
グループ会社	外食事業 株式会社梅の花サービス 他3社 テイクアウト事業 株式会社古市庵プラス その他 UMENOHANA(THAILAND)CO.,LTD. 他1社
セントラルキッチン (CK)	4工場 (京都府綴喜郡,福岡県久留米市,栃木県佐野市,山口県山口市)

年月	沿革
1976年7月	梅野 重俊がかに料理店「かにしげ」を創業
1979年10月	会社設立
1986年4月	「湯葉と豆腐の店 梅の花」1号店を福岡県久留米市に開店（久留米店）
1989年7月	「湯葉と豆腐の店 梅の花」関西地区1号店（F C）を兵庫県川西市に開店（川西店）
1992年12月	福岡県久留米市に久留米セントラルキッチンを設置
1993年3月	「湯葉と豆腐の店 梅の花」関東地区1号店を東京都多摩市に開店（永山店）
2002年6月	東京証券取引所市場第二部に上場
2003年9月	タイ国バンコク市に子会社設立「UMENOHANA(THAILAND)CO.,LTD.」
2012年11月	株式会社古市庵を子会社化（2014年10月完全子会社化）
2016年10月	株式会社丸平商店を完全子会社
2016年11月	株式会社フジオフードグループ本社と資本業務提携
2017年4月	株式会社すし半を完全子会社
2018年8月	京都府綴喜郡井手町に京都セントラルキッチンを新設
2019年2月	農事組合法人甲誠牧場と合併で株式会社三協梅の花を設立（子会社化）
2019年5月	株式会社テラケンを子会社化
2021年1月	Plum協同組合を設立
2022年4月	東京証券取引所の市場第二部からスタンダード市場に移行

当社グループのセグメントは、主力の外食事業、テイクアウト事業、外販事業・その他の事業のセグメントで構成



セグメント別売上構成



売上高・店舗数

セントラルキッチン

「梅の花」のおいしさの原点。「安心・安全・おいしい」を全国へ。

「梅の花」や「古市庵」の主力となる食材を
セントラルキッチンで製造し、安定したおいさと、安定した供給を実現



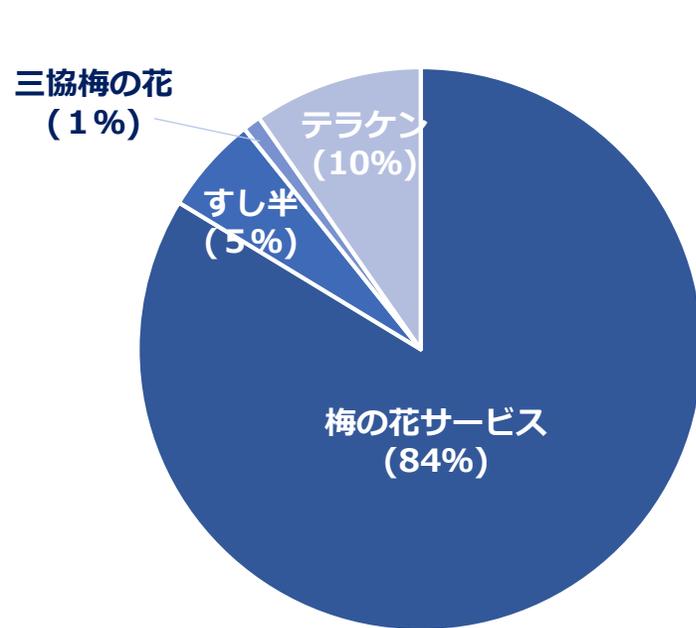
福岡県久留米市、京都府綴喜郡、栃木県佐野市、山口県山口市に拠点を構えるセントラルキッチンで作られた食材は、その日のうちに配送または冷凍保管し、鮮度と風味をキープしたまま各店舗へこの食材を店舗で仕上げることで、どのレストランでも、どのテイクアウト店でのいつでも変わらないおいしさをお客様に提供

外食事業

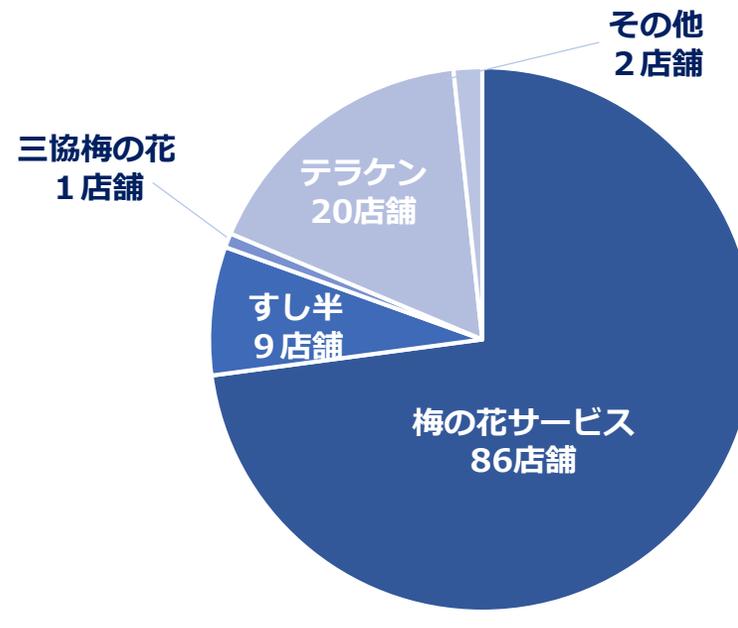
1976年に「かに料理専門店 かにしげ」を創業

当社グループの主力である「湯葉と豆腐の店 梅の花」は、
お客様に“おいしい料理に心満たされる、癒しのひとときを。”をテーマに展開

- 高級料亭を思わせる外観や高級なしつらえの店内と高度な接客を、リーズナブルな価格で提供し他社との差別化
- 事業の拡大を目指し、「創作中華の店 チャイナ梅の花」、「季節釜めし 花小梅」を出店
- 規模と業務の拡大のためM&Aにより「和食鍋処 すし半」、「海鮮居酒屋 さくら水産」をグループ化
- 新たに高価格帯の「熊本あか牛しゃぶしゃぶ 甲梅」を出店



売上高構成比

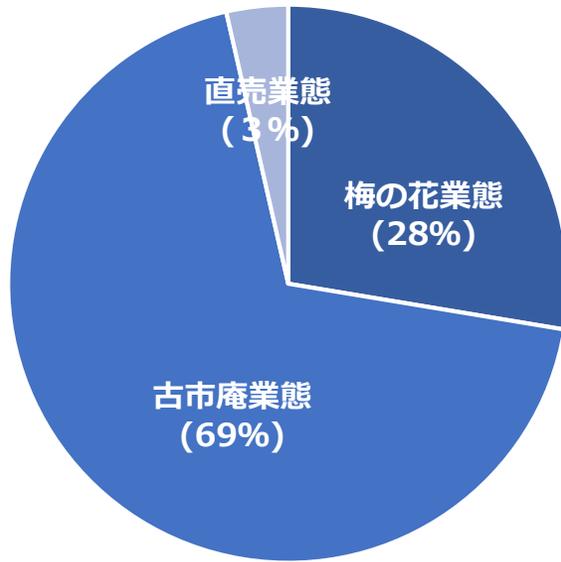


店舗数

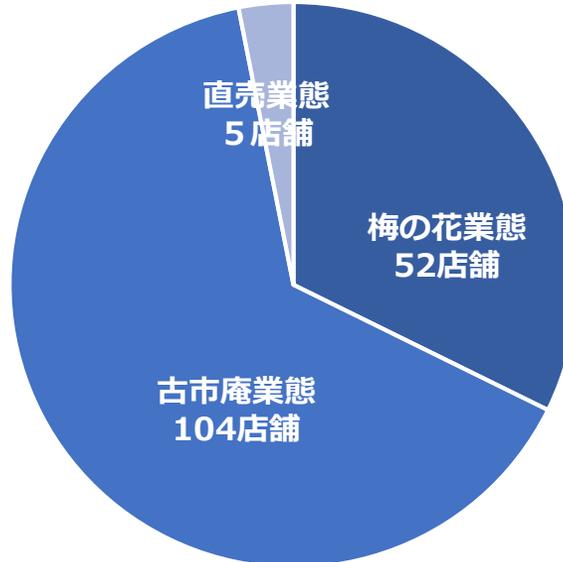


テイクアウト事業

「湯葉と豆腐の店 梅の花」の味をご家庭でも楽しめるように販売する「梅の花」のテイクアウト店
彩りの美しい寿司やおむすび等でおなじみの「古市庵」
2ブランドとも全国の有名百貨店に展開するテイクアウトブランド



売上高構成比



店舗数



外販事業

外販事業では、セントラルキッチンで製造された当社オリジナル商品を、スーパーマーケットや他社の外食事業者等、約270社へ販売し事業規模を拡大
丸平商店のカキフライ等の業務用食材も外食事業者へ販売

売上高

(単位：百万円)



人気商品
[なみはや寿司]



丸平商店
[カキフライ]



主力商品
[とうふしゅうまい]

目次

1. 会社概要事業内容説明
- 2. 2024年4月期 通期業績説明**
3. 2025年4月期 業績予想
4. 2025年4月期の取り組みについて
5. 免責事項

2024年4月期通期

<連結>

- 売上高、営業利益以下が前期より増加
- 3月発表の業績予想（修正後）を上回る結果

<セグメント別>

- 外食事業は、新型コロナウイルス感染症の収束により、来店客数の増加とインバウンド需要の回復により、売上高は増加
- テイクアウト事業は、主力百貨店の来客数の増加により、売上高は前年をクリア
- 外販事業は、販路拡大と外食需要の回復により、売上高の増加

▶売上高及び営業利益並びに税引前当期純利益は、業績予想及び前年実績をクリア

- 販売費については、賃上げの実施と、社会情勢の影響により増加
- 特別利益を計上したことにより税引前当期純利益は、14億99百万円の上昇

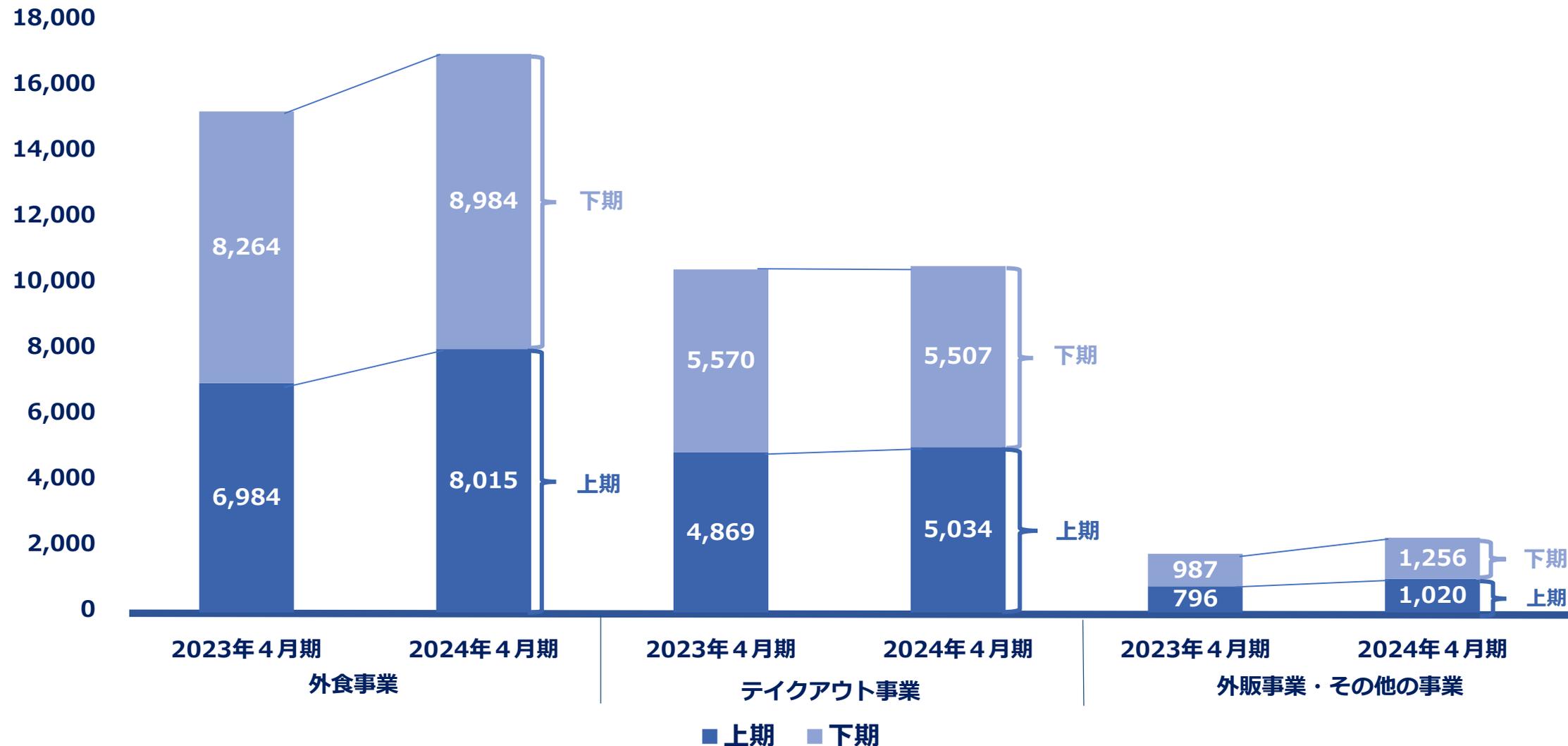
	2023年4月期	構成比	2024年4月期 実績	構成比	前期 差額	増減率	2024年4月期 業績計画	構成比	見通し 差額	計画比 予想
売上高	27,456		29,816		+2,360	8.6%	29,690		+126	100.4%
売上原価	9,803	35.7%	10,295	34.5%	+492	5.0%	10,340	34.8%	△45	99.6%
売上総利益	17,652	64.3%	19,521	65.5%	+1,868	10.6%	19,350	65.2%	+171	100.9%
販売費及び管理費合計	17,563	64.0%	18,701	62.7%	+1,138	6.5%	18,626	62.7%	+75	100.4%
営業利益	89	0.3%	819	2.8%	+729	812.5%	723	2.4%	+96	113.3%
経常利益	14	0.1%	739	2.5%	+725	-	639	2.2%	+100	115.6%
税引前当期純利益	△492	△1.8%	1,007	3.4%	+1,499	-	824	2.8%	+183	122.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△440	△1.6%	1,020	3.4%	+1,461	-	764	2.6%	+256	133.5%
E B I D A	136		1,597				974			

(単位：百万円)

※EBIDA=税引前当期利益+減価償却費+支払利息

セグメント別売上高

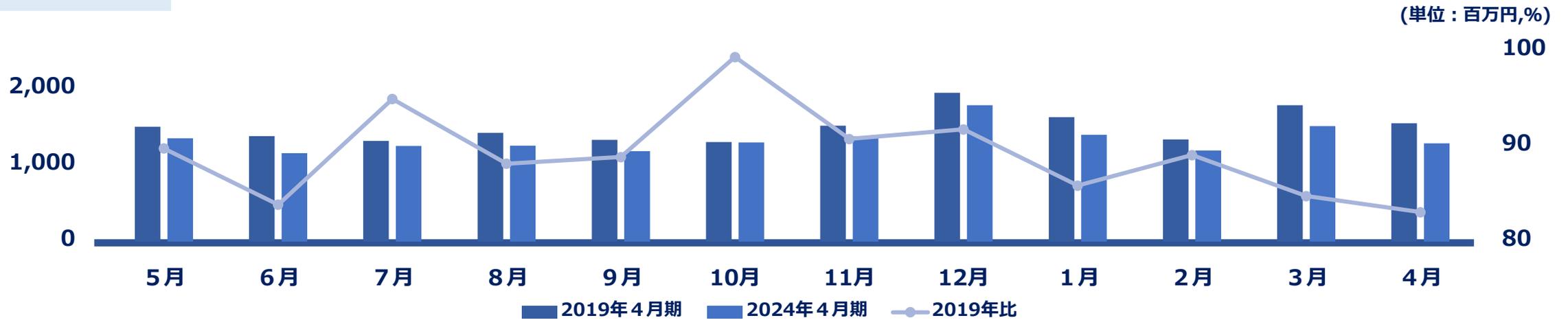
(単位：百万円)



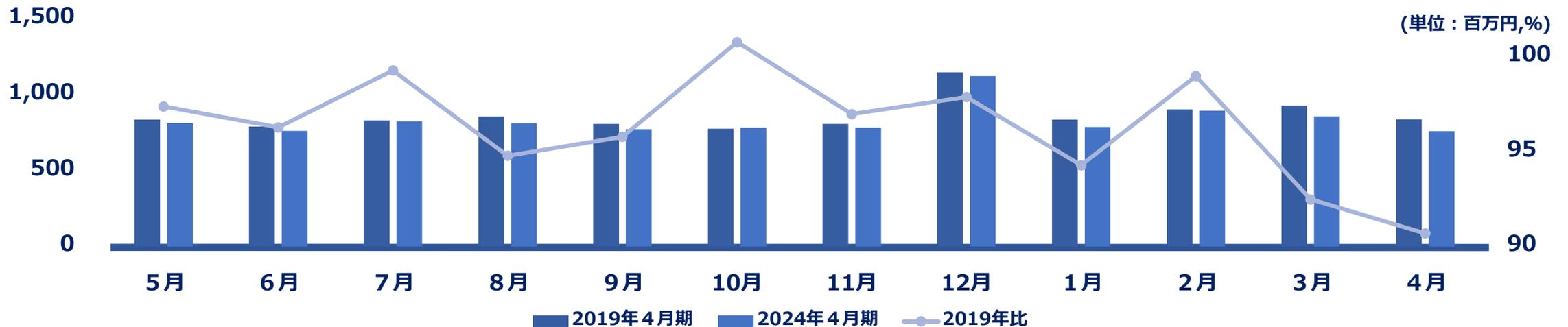
当グループは忘新年会、おせち、歓送迎会、節分等の季節イベントに伴い、下期に売上と利益が増加する

既存店月別売上推移（2019年比）

外食事業



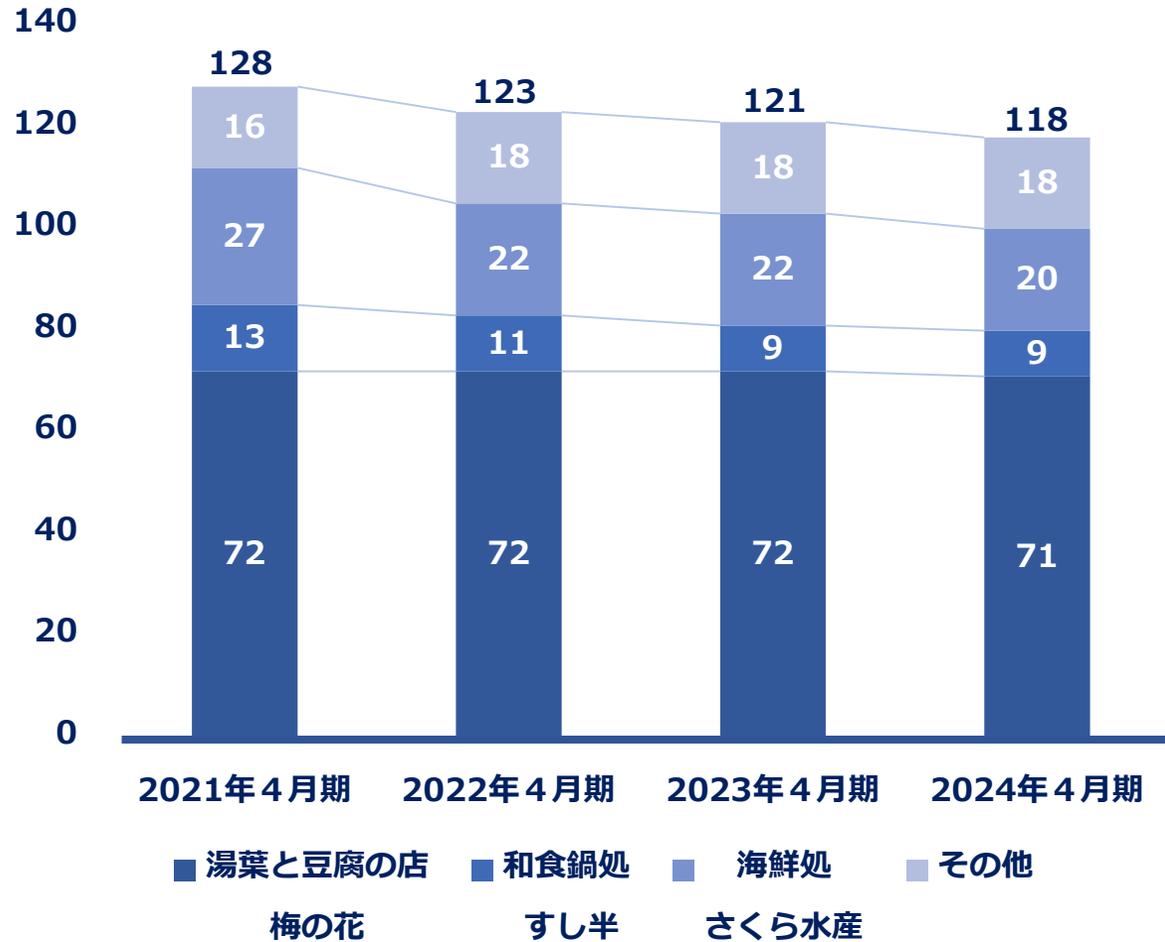
テイクアウト事業



2019年4月期は、2019年5月～2020年1月と2019年2月～4月対比

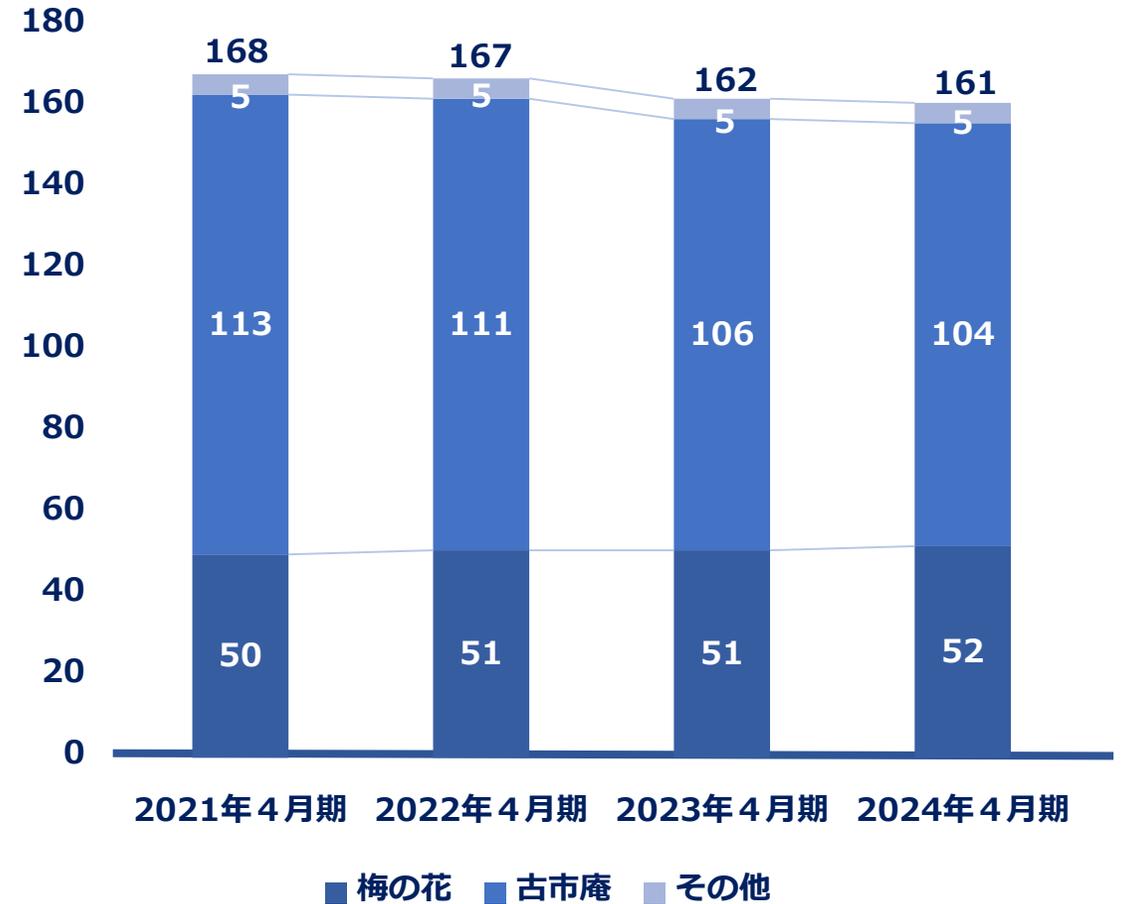
外食事業

(単位：店舗)



テイクアウト事業

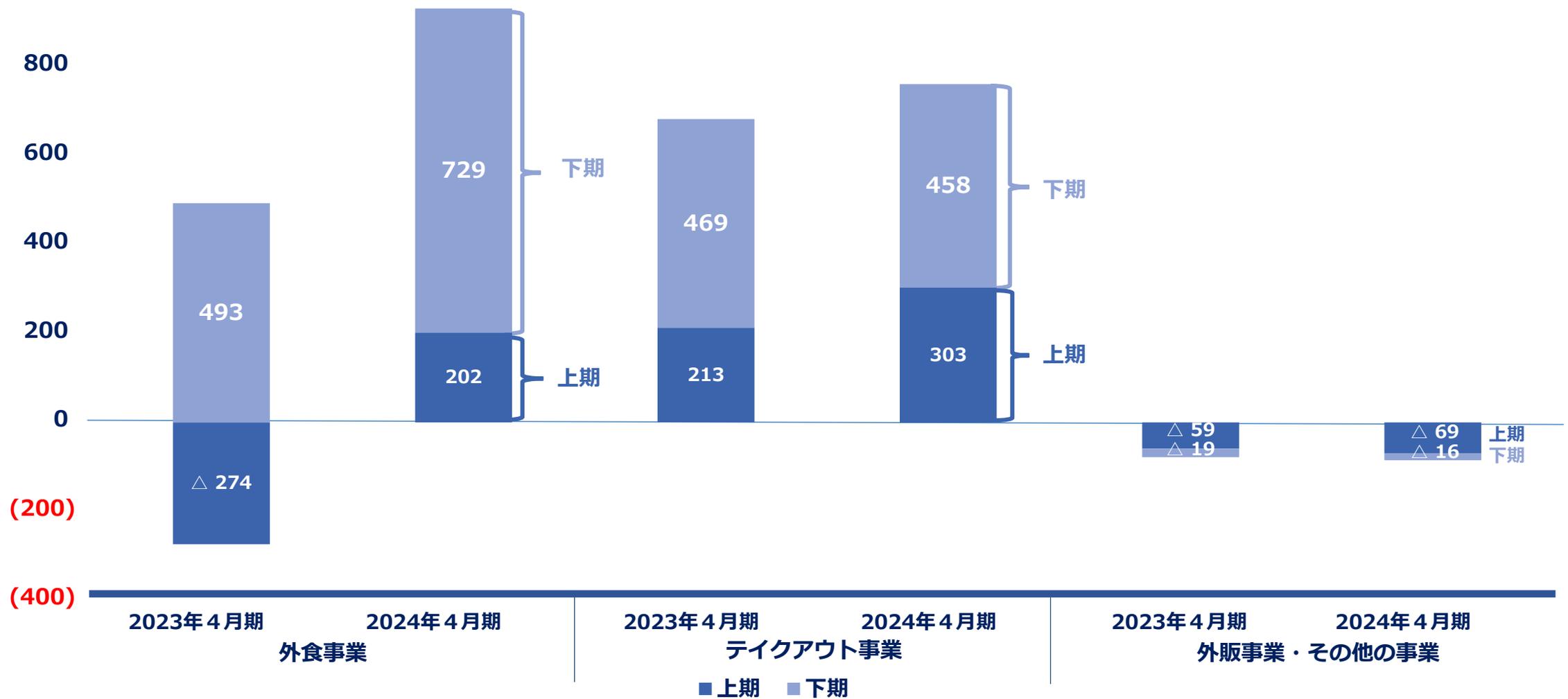
(単位：店舗)



セグメント別営業利益増減

(単位：百万円)

1,000



販売価格の改定、コスト削減及び生産性向上より利益の確保

売上高の回復により、当連結会計年度の純資産は8億38百万増加

(単位：百万円)	2023年 4月期	2024年 4月期	前期差額	主な前期差額
資産の部				
流動資産	7,223	7,580	+357	現金及び預金 △898百万円 商品及び製品 +806百万円 その他流動資産 +532百万円
固定資産	18,081	17,530	△551	建物及び構築物 △142百万円 投資有価証券 △638百万円
資産合計	25,304	25,110	△194	
負債の部				
流動負債	15,674	9,411	△6,262	1年以内返済予定の長期借入金 △5,269百万円
固定負債	7,089	12,319	+5,230	長期借入金 +5,537百万円
負債合計	22,763	21,730	△1,032	
純資産の部				
純資産合計	2,541	3,379	+838	利益剰余金 +1,020百万円

(単位：百万円)	2023年 4月期	2024年 4月期	前期差額	主な差額の内訳	
営業活動による キャッシュフロー	956	690	△265	税金等調整前当期純損益	+1,499百万円
				減価償却費	△29百万円
				減損損失	△468百万円
投資活動による キャッシュフロー	△844	△132	+711	有形固定資産の取得による支出	+85百万円
				投資有価証券の売却による収入	+711百万円
財務活動による キャッシュフロー	△2,949	△934	+2,014	短期借入金の増減額	+2,020百万円
				長期借入による収入	+229百万円
				長期借入の返済による支出	△126百万円
				配当金の支払額	△98百万円
現金及び現金同等物の 期末残高	3,316	2,939	△377		

2024年4月末期時点の現金及び現金同等物の期末残高は、2,939百万円
前期末より377百万円の減少となった

株主還元方針

株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識
 R O E（株主資本利益率：34.8%）を向上させ、収益構造の構築に努め、財務体質の改善、
 配当性向並びに内部留保の充実等を総合的に勘案して配当を実施する方針

配当の状況	年間配当金			配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第2四半期末	期末	合計		
	円 銭	円 銭	円 銭	%	%
2023年4月期	0.00	5.00	5.00	—	5.9
2024年4月期	5.00	5.00	10.00	8.5	9.4
2025年4月期（予想）	5.00	5.00	10.00	25.5	

～株主御優待制度～

【株主御優待証（カード） 100株以上 一律1枚】

ご利用代金の20%を割引いたします。

但し、さくら水産など5%割引、甲梅・黒と赤・梅香・うめまめなど10%割引。

目次

1. 会社概要事業内容説明
2. 2024年4月期 通期業績説明
- 3. 2025年4月期 業績予想**
4. 2025年4月期の取り組みについて
5. 免責事項

連結業績予想

売上高は、2024年4月期の101.5%

(単位：百万円)			2025年4月期 業績計画	構成比	2024年4月期 実績	構成比	前期比
売	上	高	30,250		29,816		101.5%
売	上	原 価	10,557	34.9%	10,295	34.5%	102.5%
売	上	総 利 益	19,692	65.1%	19,521	65.5%	100.9%
販	売	管 理 費	18,786	62.1%	18,701	62.7%	100.5%
営	業	利 益	906	3.0%	819	2.7%	110.6%
経	常	利 益	727	2.4%	739	2.5%	98.4%
税	引	前 当 期 純 利 益	727	2.4%	1,007	3.4%	72.2%
親	会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		420	1.4%	1,020	3.4%	41.2%

外食事業

売上高目標
174億68百万円

営業利益
8億83百万円

高付加価値の店舗展開

- 「豆腐と湯葉の店 梅の花」と「かに料理専門店 かにしげ」を融合した高価格帯の業態の開発
- 「熊本あか牛しゃぶしゃぶ 甲梅」の多店舗化

既存店の回復と付加価値

- 「海鮮居酒屋 さくら水産」の総合居酒屋から新鮮魚介類を中心とした店舗へリニューアル
- 付加価値の高いメニュー展開の実施

梅の花サービス
1店舗出店

三協梅の花
1店舗出店

さくら水産
2店舗業態変更

テイクアウト事業

売上高目標
106億4百万円

営業利益
390百万円

- 主力百貨店へ、古市庵・梅の花、両ブランドの出店での相乗効果
- 駅ビル、駅ナカ及び商業施設への店舗展開
- 付加価値の高いメニューの販売を強化
- 季節イベント等の企画商品の開発と販売強化

古市庵業態
1店舗出店

梅の花業態
1店舗リニューアル

古市庵業態
4店舗リニューアル

外販事業

売上高目標
22億78百万円

営業利益
16百万円

外販

- 新規取引先の開拓
- 既存商品の販売を強化し、セントラルキッチン生産性をアップ
- 顧客ニーズにあった商品の提案を行い販路の拡大

丸平商店

- 広島県産のカキフライを中心に、小売り及び飲食事業者への販路拡大
- 新商品のスチーム牡蠣を販売
- 牡蠣原料の安定した確保

通販

- オンラインショップをリニューアルし、顧客の利便性を向上
- 顧客ニーズに合わせた商品開発とラインナップの充実

目次

1. 会社概要事業内容説明
2. 2024年4月期 通期業績説明
3. 2025年4月期 業績予想
- 4. 2025年4月期の取り組みについて**
5. 免責事項

ストック事業

土地・建物の有効活用を。

当社グループが所有する土地・建物を他社へ賃貸を行う等の資産有効活用及び収益確保を目的としたストック事業
大阪セントラルキッチンを取り壊した跡地に賃貸物件の建設を行い、賃貸事業を開始

事業概要

～REISE～ 「ライゼボックス」「ライゼホビー」「ライゼパーク」は、「株式会社ライゼ」が提供しているサービス



「ライゼホビー」は、1階がガレージ、2階にフローリングのワンルームの都市型賃貸メゾネットスペース

「ライゼボックス」は、2階ヘトランクルームを建設し、敷地内の空きスペースへ月極駐車場を設置し賃貸料及び、駐車料を事業収入



大阪セントラルキッチン跡地 森小路南ライゼボックス

海外展開

タイ王国以外のアジアへ進出
「豆腐と湯葉の店 梅の花」ブランド以外の業態を海外で展開

ブランディング

企業イメージ及び、企業価値向上を目的としたリブランディング
第1弾として当社ロゴマークの変更とホームページリニューアルによるポータルサイトの制作

DX

情報システムの再構築を含めたDXを推進し、
コスト削減と生産性の向上を行い、収益改善に取り組む
各業態の顧客情報をグループ全体の顧客情報として一元化し相互送客へつなげる

うめのあぷり

外食事業、テイクアウト事業の情報発信を行い、お客様によるグループの業態を超えた回遊性を高めるアプリ内容の充実を進め、顧客接点強化に注力

—生産者と共に— 安心・安全のおいしさを、生産者ととともに。

セントラルキッチン食品残渣の年間廃棄量を100%削減

生産者との共存共栄の拡大と環境問題への取り組みとして、セントラルキッチンにて年間273トンの食品残渣を100%削減

現在は一部店舗も取り組みを開始

- ①食品残渣を発酵分解処理を行い生成物へ
- ②協力企業が回収し堆肥化③農作物の生産者へ提供
- ④生成された堆肥を使用した農作物を直接当社が全量買取り
- ⑤梅の花グループ店舗で使用

「ゆきぴりか大豆」の契約栽培

生産者との共存共栄を目的に北海道において、梅の花の名物である豆腐づくりに欠かせない「ゆきぴりか大豆」は北海道の空知・十勝地区で7軒の生産者と契約、2010年より全量買取りを行い原料の安定確保へも努めている。



【北海道 ゆきぴりか大豆】

ゆきぴりか大豆は他の大豆に比べてイソフラボン含有率が高いのが特徴。
栽培がむずかしい品種のため、生産量が少ない希少な大豆。

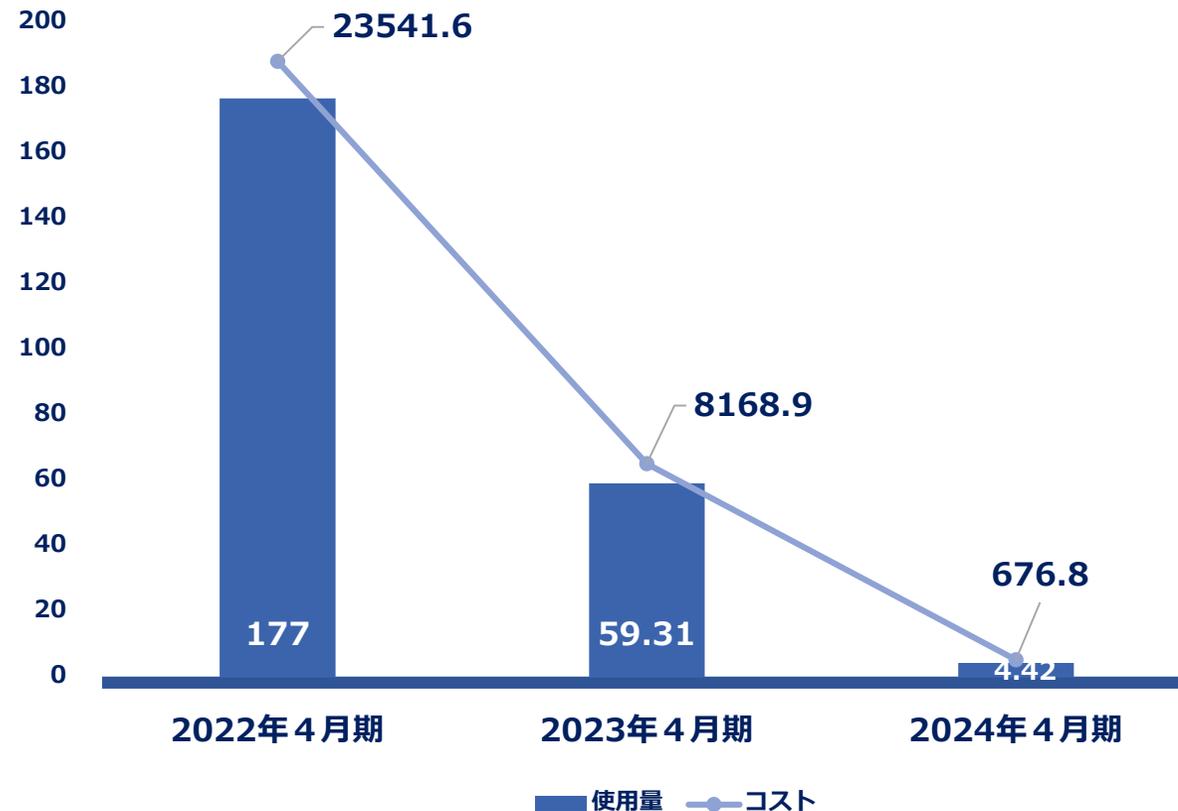


—環境への配慮— 当社は温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

物流センターから店舗への配送に使用する資材をドライアイスと発泡スチロールからリサイクルコンテナと再利用できる高性能の保冷剤へ切り替えを行い、ドライアイスの年間使用量を削減した。

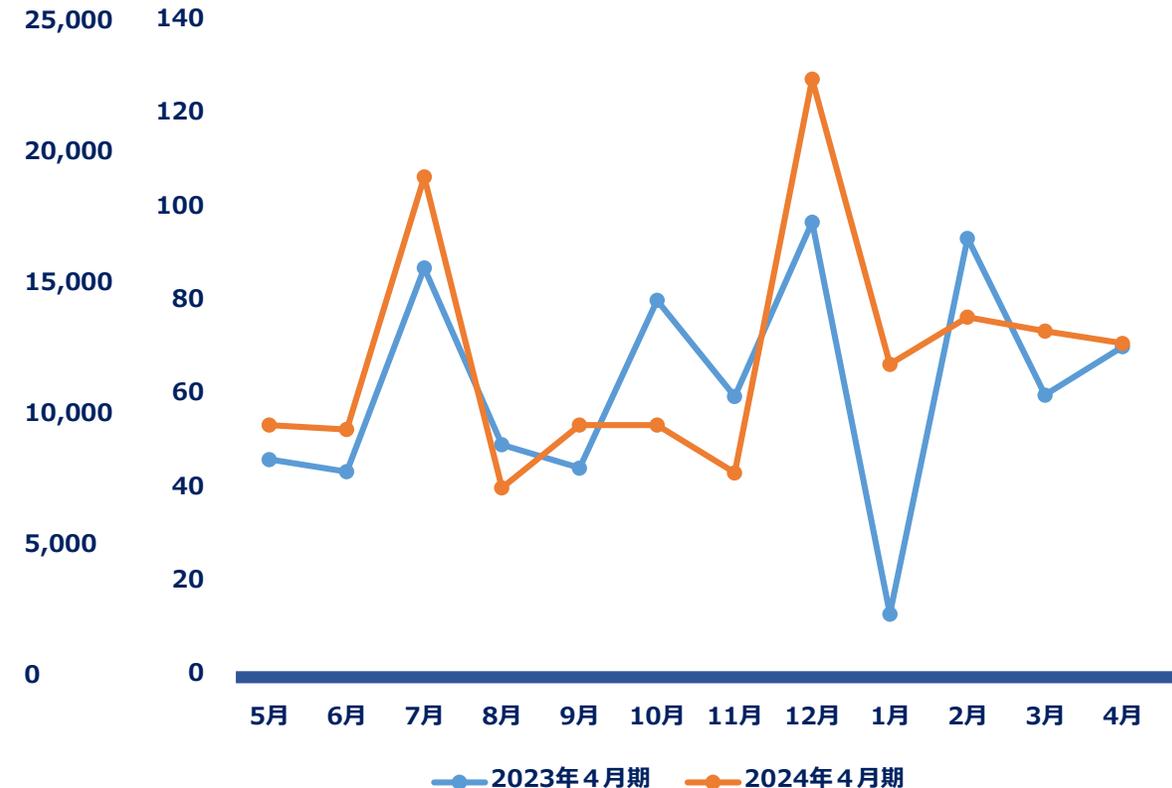
ドライアイス使用状況

(単位：トン)



発泡スチロール使用状況

(単位：千円) (単位：千円)



—社会貢献—

こども食堂への提供

梅の花グループ物販店からお弁当等930千円とセントラルキッチンから2.3トンの食品をNPO法人こども食堂へ食品を提供

地域災害へ支援

福岡県久留米市豪雨災害（2023年7月）避難所へ、11日間の食品提供

タイの学校へ支援

2014年に特定非営利活動法人「**The Flower of a Dream Association**」を設立

タイの学校へミャンマーの子供たちの学校運営支援として従業員と会社で支援活動を行うことで、国際社会の健全な発展に貢献

2024年4月期

寄付額合計 6,444千円

▶従業員 3,222千円

▶会社は従業員と同額を寄付

外国人技能実習生共同受入事業を目的とし、特定技能外国人支援事業並びに職業紹介事業を行うことを目的とした「Plum共同組合（非連結子会社）」を設立

Plum共同組合の組合員 22社（梅の花グループ[○]6社、他企業16社）

梅の花グループ

株式会社梅の花	株式会社すし半
株式会社古市庵プラス	株式会社テラケン
株式会社梅の花サービス	株式会社三協梅の花

梅の花グループへの斡旋状況	前期末	Plum	合計	増減
特定技能外国人	27名	32名	32名	+ 5名
技能実習生	36名	70名	70名	+34名

他企業への斡旋状況	前期末	Plum	合計	増減
特定技能外国人	21名	22名	22名	+ 1名
技能実習生	7名	7名	7名	± 0名

2024年4月時点

梅の花グループ[○]配属の状況

特定技能外国人	70名	技能実習生	32名
久留米C K	13名	久留米C K	5名
京都C K	45名	京都C K	10名
佐野C K	3名	佐野C K	9名
丸平商店	6名	丸平商店	8名
三協梅の花	1名		
テラケン	1名		
すし半	1名		

当社に所属する特定技能は前期より5名増加の32名、技能実習生は前期より34名増加の70名

本資料は、株式会社梅の花（以下、当社）についての一般的な情報提供を目的としており、当社の発行する株式その他の有価証券への投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料に記載される当社の実績・計画・見積もり・予測・その他将来情報については、現時点で入手可能な情報や現時点における判断・考えであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。また、本資料は、現時点で一般的に認識されている経済・社会等の情勢に基づいて作成しているものですが、経済情勢の変化等の事由により予告なしに変更される可能性があります。

掲載内容に関して、細心の注意を払い作成しておりますが、不可抗力により情報誤伝を生ずる可能性もありますのでご注意ください。

なお、無断での複製、転用等を行わない様、宜しくお願い申し上げます。

お問い合わせ先：経営計画室 IR担当
E-mail : ir_info@umenhana.co.jp
URL : <https://www.umenhana.co.jp/>